

群馬県立富岡実業高等学校 学校評価一覧表① (令和元年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部不審	改善策	自己評価	外部不審	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 各学科コースの専門教育に生徒の80%以上が満足している。	ア 普通科目と専門科目の座学や実験実習の授業改善を図り、基礎学力、専門的知識や技術・技能を基礎から何度も繰り返し確実に身に付けさせる。また、外部機関との連携に努め、積極的に活用する。1学年で行うコース選択ガイダンス科目「産業社会と人間」を充実させる。	A	A	コース・部門別や選択科目などの授業に生徒の91%が満足している。外部機関等との連携を積極的に実施するなど、授業の形態をさらに工夫する。	A	A	コース・部門別や選択科目などの授業に生徒の92%が満足している。さらに授業改善を継続する。	
		② 地域貢献活動に積極的に参加し、その活動を評価する生徒が80%以上である。	イ 地域貢献活動として行政や地域の小・中学校、各種団体との連携・交流を行い、活発に情報発信を行う。地域活性化活動等は、普通科・農業科・工業科が協力して推進する。生徒には、興味や達成感をもって取り組めるよう、学年・コースに応じた活動の場を設定する。	A	A	地域交流・連携の大切さを考える生徒は84%、参加した又は予定している生徒も60%で、昨年よりも増加した。活動を継続するとともに、さらに生徒が参加しやすい交流や形態を工夫する。	A	A	地域交流活動の大切さを考える生徒は86%、参加した生徒は57%であった。有意義な活動として、上級生から下級生へ引継がれるようにしていきたい。	
		③ 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	ウ 基礎・基本を重視し、繰り返し学べる学習指導を充実させる。また、生徒会・農業クラブ・各部活動・研究部活動や生徒が意欲的に参加できる行事等を工夫する。	B	B	富実を選んで良かったと回答した生徒は80%で、昨年度と同様な結果となった。行事に満足している生徒は昨年よりやや増加したが79%に止まっていることから、さらに各部との連携を図り、生徒が満足できる活動を模索する必要がある。	B	B	富実を選んで良かったと回答した生徒は80%となった。しかし、行事に満足している生徒は75%だった。行事の内容をさらに工夫・改善する。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすい」と、生徒の70%以上が答えている。	エ 生徒の特性、学習状況や理解度等を把握したうえで、授業改善に取り組む。学力定着に課題のある生徒への指導を充実させる。	C	C	授業がわかりやすいと回答した生徒は67%であった。授業改善を重ね、よりわかりやすい授業を工夫する必要がある。	C	C	授業がわかりやすいと回答した生徒は68%と目標値に達しなかった。74%が丁寧に教えてくれると評価しているが、より工夫・改善に努めたい。	
		⑤ 資格取得に向けた指導に、生徒の80%以上が満足している。	オ 生徒・保護者に対して資格取得の意義を伝え、補習等を活用して受験率と合格率を高める。	A	A	生徒の89%が資格取得指導に満足している。工夫・改善を図りながら継続指導を実施する。	A	A	生徒の評価は89%で目標値を達成している。今後もさらなる向上を目指して継続する。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が、80%以上である。	カ 授業規律の確立を土台に、主体的・対話的など学びの導入やICTの活用等によって生徒の意欲を引き出す指導を実践する。	A	A	生徒の85%が意欲的に学習に取り組んでいると評価している。さらに継続指導をする。	A	A	生徒の評価は86%である。今後も工夫・改善を加えながら継続する。	
		⑦ 自己の目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が、70%以上である。	キ 朝学習や補習等で基礎学力を向上させる。将来の進路目標に向け基礎基本の習得、資格取得および生きて働く専門性を身に付けさせる。	C	B	目標をもって勉強し学力を身に付けていると回答した生徒は67%である。朝学習や放課後の補習に取り組んでいる生徒が60%と少なく、学習習慣を身に付ける工夫が必要。	B	B	目標を持って勉強し学力を身に付けていると回答した生徒が70%と目標を達成したが、学年に差があるので、学年ごとに自主的な学習をさせる取り組みを模索する。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 学校は安全であり、安心して学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上である。	ク 職員会議や学年会で生徒に関する情報交換を緊密に行い、生徒の状況把握と情報の共有を図り、問題行動やいじめ問題の未然防止を図る。また、職員全体できらめき指導を行う。	C	C	生徒の評価は昨年度より上昇し、77%となった。相談しやすい雰囲気があると答えた生徒も10%増加し67%になった。生徒が相談しやすい環境をより一層整える必要がある。	C	C	生徒の評価は昨年度並みの73%となった。生徒が不安に感じている要因をきめ細かに把握し対応する必要がある。	
		⑨ 欠席率が1.2%以下、遅刻率が0.4%以下である。	ケ 卒業後の進路実現を見据え、家庭と連携を取り、基本的生活習慣の確立を図る。	C	C	欠席率は1.1%、遅刻率は0.8%だった。今後は家庭と連絡を取りながらこの状態を改善していきたい。	D	D	長期欠席等により欠席率は1.6%、遅刻率は1.0%となった。家庭や関係機関と連携し、状況改善に努める。	
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 毎日朝食を摂るなど、健康に留意した生活を送るよう意識している生徒が80%以上である。	コ 規則正しい生活を送るために、保健便りやH.R、授業を通じて睡眠や朝食の大切さを理解し実践するよう意識させる。	C	C	毎日朝食を食べると答えた生徒が81%、きちんと睡眠をとると答えた生徒が75%だった。規則正しい生活を意識させたい。	C	C	毎日朝食を摂っていると答えた生徒が82%きちんと睡眠をとると答えた生徒が75%だった。規則正しい生活を促すようさらに指導が必要である。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑪ いじめをしない許さない態度を身に付け、いじめ防止に向け積極的に取り組む生徒が85%以上である。	サ 生徒会が中心となり、いじめ防止の年間計画を立案し、クラスでの話し合い、標語づくり、いじめ防止フォーラムの成果を生かした活動等、生徒主体の活動を充実させる。	C	B	生徒の評価は76%で目標に一步足りない状況である。いじめをしない許さない気持ちはもっているため、いじめ防止フォーラム等を契機に生徒主体の取組を充実させたい。	C	C	人の嫌がることをしないよう意識している生徒は95%であるが、生徒主体の「いじめ防止活動」に参加している生徒は71%に低下した。生徒会が中心となり「いじめ防止活動」を工夫する。	
		⑫ 進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が85%以上である。	シ 進路講演会、進路相談会、インターンシップなど、進路への関心を高める行事を開催する。	A	A	進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が90%である。今後も役立つ行事を継続する。	C	C	進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が84%に低下した。より生徒に身近でわかりやすい行事を工夫する。	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ インターンシップの効果を参加生徒の85%以上が肯定的に評価している。	ス 2学年全ての生徒にインターンシップを実施し、キャリア形成の基礎とさせる。	A	A	インターンシップの効果を参加生徒の91%が肯定的に評価している。今後も活動の継続と連携先の開拓を行う。	B	B	生徒の評価は目標を達しているものの87%に低下した。活動の継続と生徒のニーズに合った連携先の開拓を行う。	
		⑭ 自分の適性について理解し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が85%以上である。	セ 適性検査や進路ワークブック・進路手帳を活用し自己理解を深めさせるとともに体験活動等を工夫し、積極的に進路学習に取り組ませる。	C	C	積極的に取り組んでいると評価した生徒が昨年度より増加し81%であった。さらに生徒への働きかけを増やし教材の活用を図る。	C	C	積極的に取り組んでいると評価した生徒は79%であった。生徒の自覚を促す取り組みをさらに検討・工夫する。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮ P.T.A活動や学校行事等に1回以上参加している保護者が、80%以上である。	ソ 保護者が参加しやすい機会の充実を図る。	A	A	89%の保護者がP.T.A活動や学校行事に1回以上参加している。G.S.Nメール等をさらに活用して参加を呼びかける。	A	A	行事に1回以上参加したと答えた保護者は84%であった。さらに参加しやすい工夫する。	
		⑯ 授業公開、学校からのメールや配付物、ホームページの閲覧等を通じて、保護者の70%以上が学校の様子を理解できている。	タ 授業公開を年3回実施、ホームページの定期的な更新、学校通信の発行及びG.S.Nメールで学校情報を積極的に発信する。	A	A	学校での生活をだいたい把握している保護者は74%だった。一方、富実の記事やホームページを見たことがある保護者は57%だった。G.S.Nメールなどを通じた情報発信をさらに充実させたい。	A	A	学校での生活を把握している保護者が78%、新聞やホームページを見たことがある保護者が63%に向上した。情報発信をさらに充実させたい。	

(目標値の) A:十分達成できた 105% B:達成できた 100% C:もう少しで達成できた 80% D:達成できなかった 80%以下

80% ⇒ 80%×1.05=84% 80%×1.00=80% 80%×0.80=64% 63%
70% ⇒ 70%×1.05=73.5% 70%×1.00=70% 70%×0.80=56% 55%